

V. 発達障害の子どもたちへの対応

Q1. 発達障害の子どもたちには、どのような特徴があるのでしょうか？

A1. 発達障害の子どもたちには一般的に次のような特徴があります。

発達障害の子どもたちのことを「ちょっと気になる子」という表現をすることもあり、最近ではクラスに2～4人程度いるとも言われています。そして、その特徴は下のようなのです。

ちょっと気になる子の特徴

- じっとしていない
- 指示に従わず、勝手な行動をする
- 思うようにならないと、かんしゃくを起こす
- 他の子どもにちょっかいを出したり、喧嘩をする
- 突然泣き叫ぶ
- ぼーっとしている
- 関係ない事を話しはじめ、終わらない

■知らぬ間にこの子たちのプライドを傷つけている！

“本人なりに頑張っている”が“理解されない”ことが多い。
ほとんどの子どもが簡単にできることが、
発達障害の子どもたちには簡単でないことが多々ある。

周りの大人が陥りやすい状況

- 危険、暴力的な子と見てしまう
- ふざけている、わがままと感じる
- 大人をなめていると思う
- 反抗的な子どもと思う

怒鳴る、厳しく指導、虐待

～この子たちは何倍も叱られています～

- 動いちゃだめ！
- 何度同じことを言われるの！
- だめな子！
- どうして、そんなことをするの！
(→理由を追求する)
- それくらい自分で考えなさい！

などの「否定的メッセージ」を幼少期から受けている

Q2. 発達障害の子どもたちへの対応はどのようにすればよいのでしょうか？

A2. 具体的に説明するなどの伝え方を工夫すること、これから何をどのようにするかなどの見通しを立ててあげることが大事です。

発達障害などの子どもには暗黙の了解などが通じないことが多いです。そのために、本人に伝わるような下のような要領で接しましょう。

■伝え方のポイント

1. 伝える時の態度

- 「命令形・大声をさける」こと（「～なさい」ではなく「～しよう」）
- 「穏やかに・丁寧に話す」こと

2. “説明する時”のポイント

- 「これからの見通し」を伝えること（見通すことが苦手なため）
- 「当たり前、常識的、見れば分かる」ことでも説明する
- 「その都度、繰り返し」説明すること（1回では）
- 「写真、絵など」も活用すること（目で確認した方が理解しやすい）

3. “本人が何かをした時”のポイント

- 「否定的な言葉」を言わないこと
- 「できていること」をほめること（大げさに）
- 「できていないこと」には「こんなふうにしてみたら？」と提案すること

■見通しを立てる（見える化する・説明する）

これから何が起こるかわからない状況に対して、不安を感じていることが多いです。発達障害の子どもは先を見通すのが苦手です。

↓
1日のスケジュールを事前に伝え、内容を説明する。



「〇時に車で〇へ行き
△をする。△とは、どう
いうことでこんなこ
とをする。」
「この日程だけど、大丈
夫？ 無理な時は私に
伝えてね！」

■今日の予定

- 1.家に帰り荷物を置く
- 2.自己紹介をする
- 3.農業体験をする
- 4.家に戻りお風呂
- 5.皆で晩御飯づくり
- 6.家族みんなで晩御飯
- 7.就寝

Q3. 発達障害の子どもがパニックになったり、感情的な行動を起こした時の対応はどのようにすればよいのでしょうか？

A3. 叱ったり、大きな声を出したり、命令的な口調は避け、次のような対応をしましょう。

■パニック、感情的な行動に対して

1. “本人の気持ち”を“言語化”する

例：どのくらいの大きさがいいのかわからなくて困ったんだね。

2. 起きた場所から“移動する”

→その場で落ち着くことは難しいため

3. クールダウンするまで“そっとしておく”

→励ましたり、慰めたりしても本人が聞き入れる事は難しいため

4. 落ち着いたところで“本人の思いを聞いてあげる”

例：「～すれば良かったんだね。」→「次はそうしようね。」

発達障害の子どもたちは、親や学校生の先生などから叱られたり、怒鳴られたり、厳しく指導されていることがよくあります。彼らを農林漁家泊や農業体験などで成長させるためには「**長所を活かした関わり方**」をしましょう。

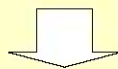
■長所を活かした関わり方

「できないことをできるようにさせる」という考え方ではなく、

「**できることをよりできるようにする**」という考え方で関わりましょう！

出来るようになってほしい・・・という思いが強くなればなるほど、感情的になり、つい言葉もきつくなり怒りを相手に向けたくくなりますが、できないことに目を向けるよりも、出来たことを認め褒めることで良い方向に向かうことが多いものです。

「**できた!**」「**わかった!**」「**認められた!**」という経験



「**頑張ってみよう!**」と思えることの基盤になります。

また、発達障害に限らず、子どもたちとの関わり方においては褒め上手になることで、子どもたちの自尊心を高めることができます。褒め言葉や褒め方をマスターしましょう。

■褒め言葉

- ・上手だね！
- ・すごいね！
- ・綺麗だね！
- ・素晴らしいね！
- ・頑張ったね！
- ・さすがだね！

■褒め方

- ・具体的に褒める
- ・タイミングよく
- ・視線を合わせて
- ・明瞭で短く

参考文献

「農林漁家泊による”学校教育旅行”コーディネーターのための手引きⅠ」

平成 24 年 3 月 財団法人 都市農山漁村交流活性化機構

「安全管理マニュアル作成のポイントQ&A」

平成 24 年 3 月 子ども農山漁村交流プロジェクト研究会

「農林漁家民宿における子ども長期宿泊体験活動受入対応の手引き」



研修プログラム手引き（最終版）-2.xdw

平成 20 年 3 月 財団法人 都市農山

漁村交流活性化機構

“農林漁家泊の受け入れ家庭” 向け
子どもたちのために！ 地域のために！

沖縄らしく交流教育活動を行うための手引書

平成26年3月

発行：沖縄県農林水産部村づくり計画課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号
TEL：098-866-2263 FAX：098-869-0557